北海道における外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態の概要①

国土交通省

- 国土交通省北海道開発局は、2018年4月に協定を締結した株式会社ナビタイムジャパンとともに、同社のスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」を活用し、地方部の魅力的な観光資源等を情報発信し継続的な外国人観光客の地方部への誘導及び移動経路等の把握を実施。
- 2017年は社会実験として9-11月分のGPSデータを取得し、分析を実施。2018年は、初めて通年（1～12月）のGPSデータ（2,540人）を取得し、外国人ドライブ観光客の北海道における周遊・滞在実態について分析。この分析結果を関係機関等と共有し、今後の観光施策やプロモーション活動等を推進。

主な分析結果

■ **外国人ドライブ観光客は北海道内各地を広域に周遊し、来道外国人旅行者全体に比べ、より地方部を訪れ、より長い期間滞在しており、ドライブ観光の促進は、来道外国人旅行者の地方部への誘客に有効。**

・**地方部宿泊割合：外国人ドライブ観光客は今回調査47.4%**(※１)、**昨年調査42.5%**(※2)となり、**他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体は26.4%**(※3)。
・**平均旅行日数：外国人ドライブ観光客は今回調査6.2日**(※１)、**昨年調査5.8日**(※2)となり、**他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体は3.7日**(※3)。
※１　今回実施調査（2018年1-12月）　※2　昨年実施調査（2017年9-11月）　※3　北海道「北海道観光入込客数調査報告書」（2017年1-12月）

■ **外国人ドライブ観光客の目的地は、雪、芝桜、桜、ラベンダーなど、季節に応じて変化。**

・**1-3月期**は**倶知安町やニセコ町を含む後志地域**、**4-6月期はオホーツク圏、道南圏**、**7-9月期は美瑛・富良野エリアを含む道北圏**の割合がそれぞれ高くなっている。

■ **国・地域別では、香港・シンガポール・台湾は道南や道東へ広域に周遊、韓国は札幌、美瑛・富良野に集中。**

■ **アプリユーザー（外国人ドライブ観光客）はリピーターが多い（36.9%）。**・**来道外国人旅行者全体** 2016年度北海道庁調査:**32%**

■ **リピーターの方が地方部を訪れる割合は高くなるが、来道経験10回以上では道央圏（札幌）が再び高くなる。**

・**地方部宿泊割合　来道経験なし・1回:45.6%　来道回数2-5回:51.9%　来道経験6-9回:51.2%　来道経験10回以上:42.4%**

アプリユーザーの状況

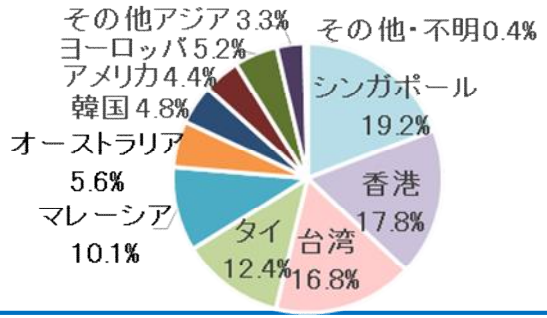
■アプリユーザー（外国人ドライブ観光客）はリピーターが多い。

○2018年は2,540人のデータを取得。これは北海道全体の外国人レンタカー貸渡台数の90,908台の2.8%に相当。

○国・地域別では、シンガポール、香港、台湾、タイの順に多く、上位5か国は全てアジアで、全体の76.3%を占める。（図1）

○アプリユーザーに占めるリピーターの割合は36.9%であり、来道外国人旅行者全体32%(2016年度:北海道庁調査)よりも高く、来道経験4回以上の割合も高い(15.1%)ことから、外国人ドライブ観光客はリピーターが多いと推測される。

図1.アプリユーザーの国・地域別構成割合



北海道における外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態の概要②

国土交通省

周遊・滞在の概況

■外国人ドライブ観光客は、北海道内各地を広域に周遊。

○レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域を含めて、北海道内各地を広域に周遊。（図2）

○滞在については、札幌市、函館市、旭川市及び美瑛・富良野エリア等の主要観光地に集中。また、観光地間の市町村には測位者数に比べ滞在者数が大きく減少しているケースが見られ、通過されている傾向が伺える。（図3）

図2.GPSデータ測位者数（10kmメッシュ）2018年

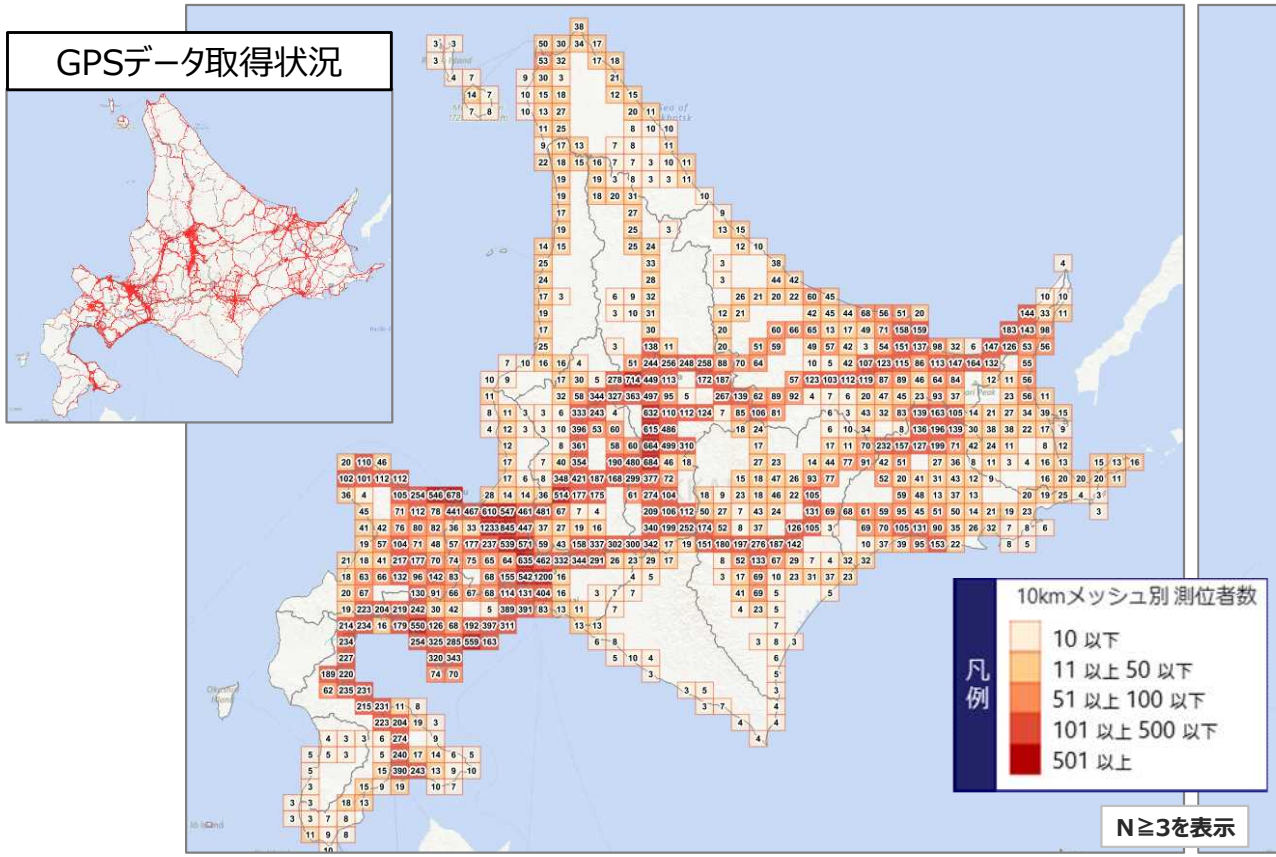
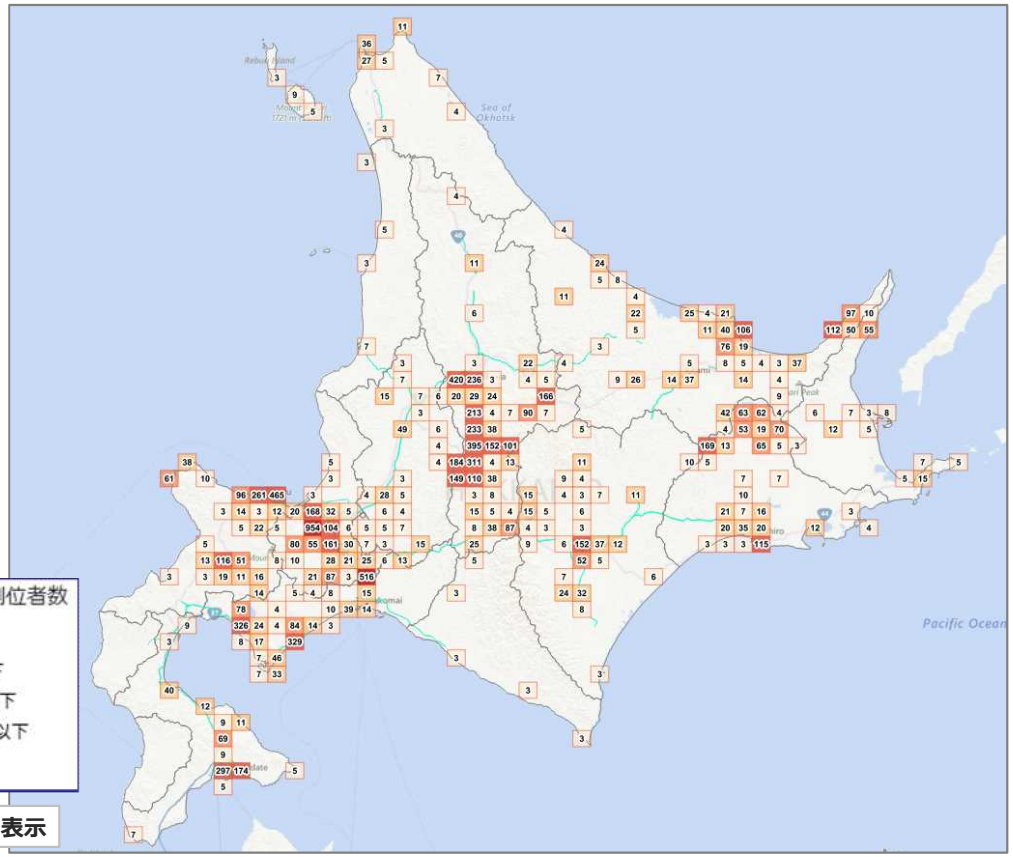


図3.GPSデータ滞在者数（10kmメッシュ）2018年



■測位者数とは
特定のメッシュ内に存在していた訪日外国人旅行者のGPSデータ測位者数をカウント。

■滞在者数とは
取得した訪日外国人旅行者GPSデータのうち、同一1kmメッシュ内に30分以上連続で滞在した人を「滞在」と定義しカウント。

北海道における外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態の概要③

国土交通省

周遊・滞在の実態

■外国人ドライブ観光客は、来道外国人旅行者全体に比べ、より地方部を訪れ、より長い期間滞在。

【地方部への誘導（圏域別宿泊割合）】

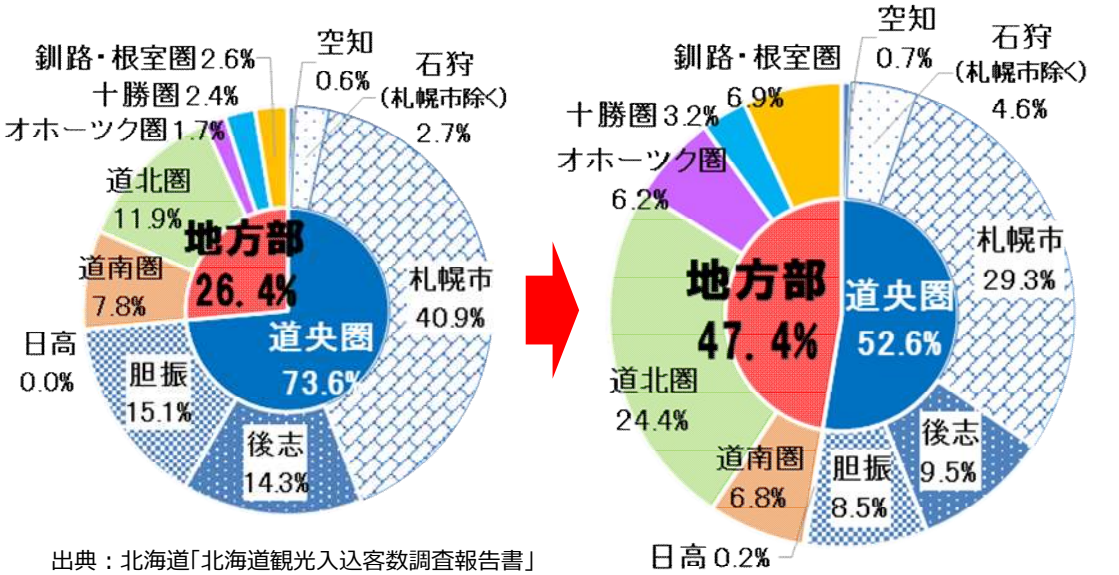
○外国人ドライブ観光客(アプリユーザー、以下同じ)の宿泊地は、地方部（道央圏以外）が**47.4%**。（図4）

○これは、他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体26.4%(2017年:北海道庁調査)、昨年の当局実施調査による外国人ドライブ観光客42.5% (2017年9-11月) 、日本人旅行者47%(2017年:北海道庁調査)よりも高い結果となった。（図4、図5）

■宿泊とは
本分析では、21時～翌3時の間GPSデータが測位された最後の市町村を「宿泊地」とみなしている。

図4.圏域別宿泊割合

【参考】来道外国人旅行者全体(2017年)　**外国人ドライブ観光客(GPSデータ:2018年)**



出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

【旅行日数】

○外国人ドライブ観光客の平均旅行日数は**6.2日**。（図6）

○これは、他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体3.7日(北海道庁調査 2017年)、昨年の当局実施調査による外国人ドライブ観光客5.8日(2017年9-11月)よりも高い結果となった。（図6）

図5.地方部(道央圏以外)への宿泊割合

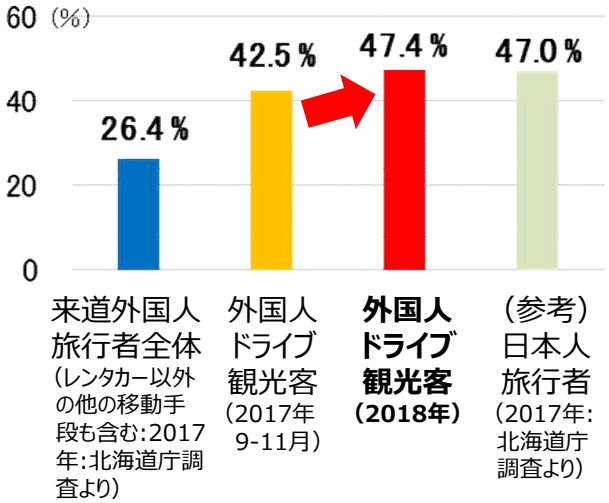
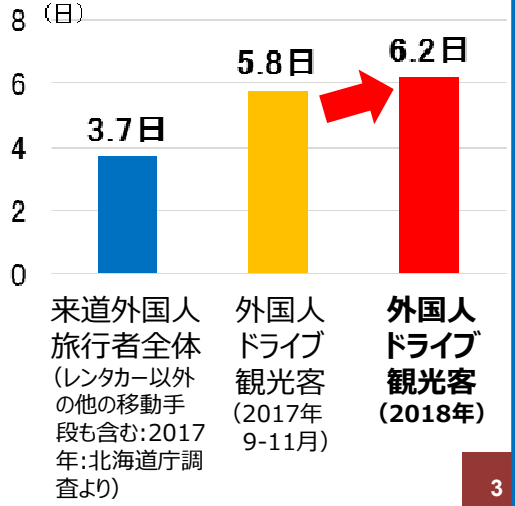


図6.平均旅行日数



北海道における外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態の概要④

国土交通省

周遊・滞在の実態

■外国人ドライブ観光客の目的地は、雪、芝桜、桜、ラベンダーなど、季節に応じて変化。

【四半期別の状況】

○地方部への宿泊割合が最も高くなるのは、**4-6月期で48.8%**。（図7）

○1-3月期は倶知安町やニセコ町を含む後志地域の割合が高くなり、4-6月期はオホーツク圏、道南圏の割合が高く、7-9月期は美瑛・富良野エリアを含む道北圏の割合が高くなっている。（図7）

○雪、芝桜、桜、ラベンダー等の観光資源がある地域の割合が、その季節に応じて高くなっており、外国人ドライブ観光客の目的地が、雪や花など、季節に応じて変化していると推測される。

○市町村別の滞在率においても、四半期により滞在率が大きく変化する市町村があり、季節に応じて外国人ドライブ観光客の目的地が変化していることが伺える。（図8）

図7.四半期別 圏域別宿泊割合

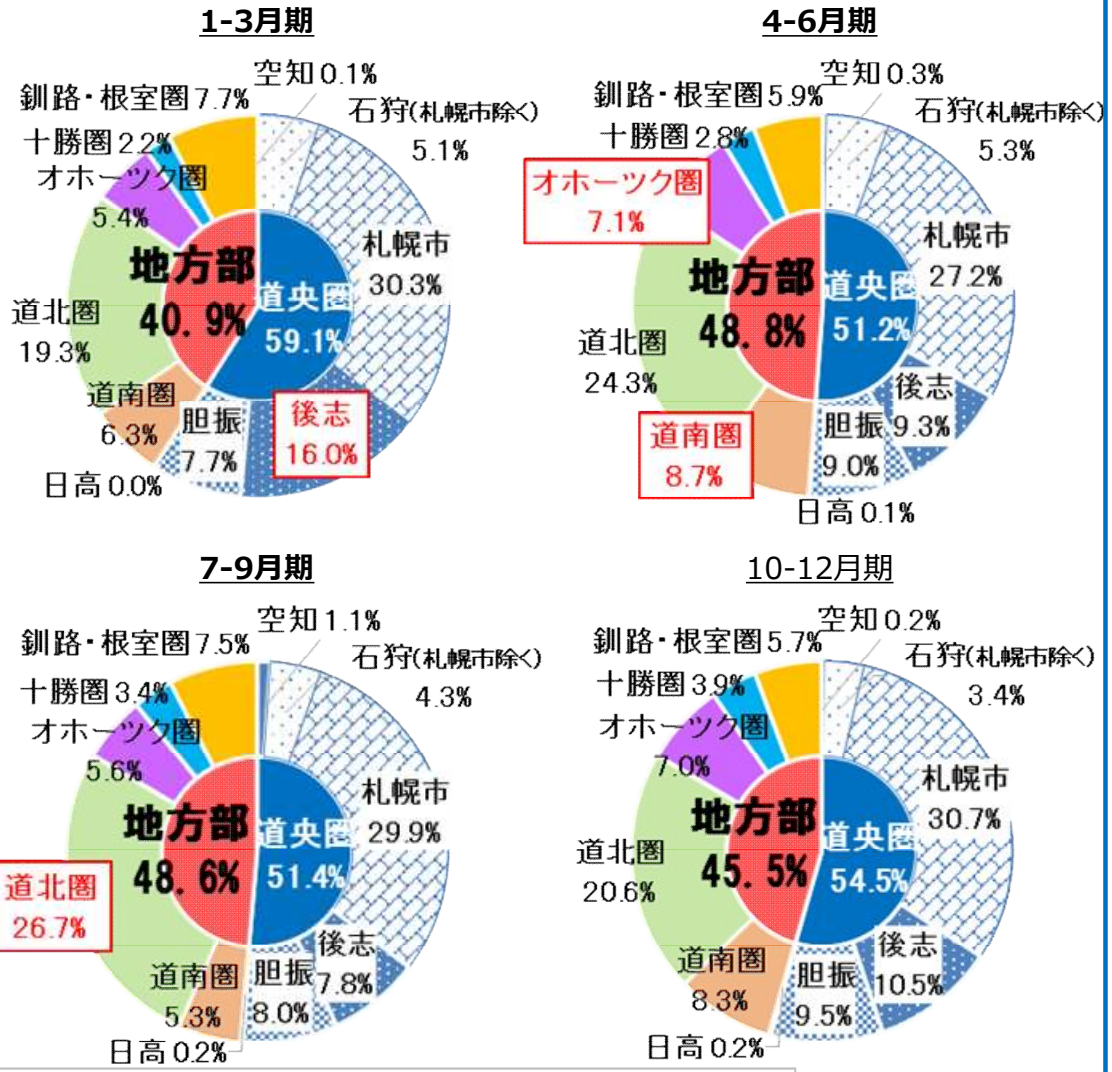


図8.四半期別市町村別滞在率上位10

順	【1-3月期】市町村名	滞在率	【4-6月期】市町村名	滞在率	【7-9月期】市町村名	滞在率	【10-12月期】市町村名	滞在率
1	釧路市	96.3%	斜里町	86.2%	函館市	80.0%	斜里町	75.6%
2	網走市	83.3%	函館市	82.0%	釧路市	77.8%	小樽市	65.1%
3	札幌市	79.4%	小樽市	78.5%	札幌市	74.2%	帯広市	64.5%
4	函館市	78.9%	札幌市	78.0%	斜里町	73.8%	東川町	63.3%
5	倶知安町	76.9%	東川町	73.2%	小樽市	73.2%	函館市	60.2%
6	旭川市	74.2%	帯広市	72.7%	帯広市	71.9%	札幌市	57.4%
7	小樽市	68.7%	富良野市	72.1%	積丹町	70.4%	網走市	57.1%
8	登別市	64.3%	網走市	71.9%	弟子屈町	68.2%	釧路市	56.9%
9	富良野市	61.0%	釧路市	69.5%	中富良野町	66.5%	壮瞥町	55.3%
10	ニセコ町	57.7%	旭川市	64.8%	富良野市	64.7%	旭川市	51.9%
	※測位者20未満を除く		※測位者30未満を除く		※測位者50未満を除く		※測位者30未満を除く	

■滞在率とは
市町村別に滞在判定された人数を各市町村の測位者数で除した値。
当該エリアを通過せずに立ち寄った比率を示す。
測位者数が少ない市町村であっても、高い数値となる点に留意が必要。

北海道における外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態の概要⑤

国土交通省

周遊・滞在の実態

■香港・シンガポール・台湾は道南や道東へ広域に周遊、韓国は札幌、美瑛・富良野に集中。

【国・地域別の滞在状況】

○**香港、シンガポール及び台湾は道南や道東へ広く訪れている**ことが分かる。（図9）

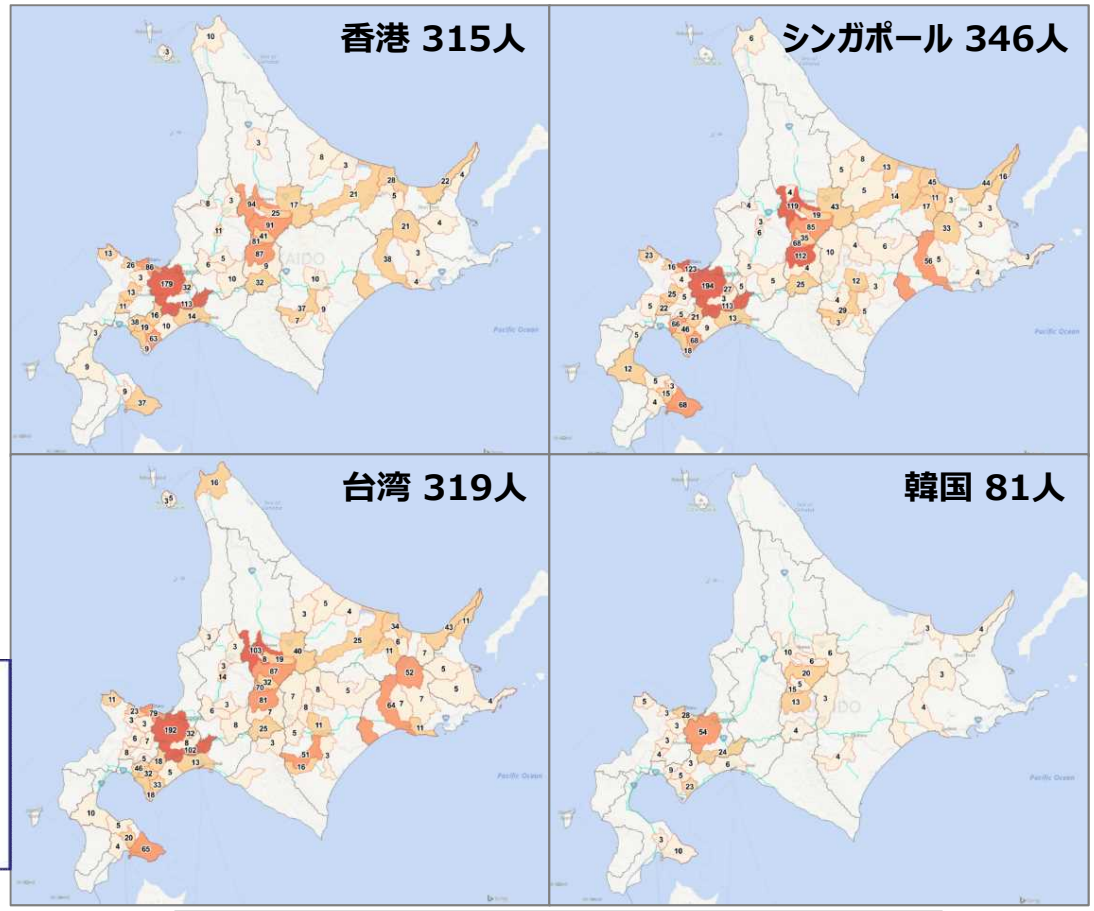
○**韓国は、札幌市周辺及び美瑛・富良野エリア周辺に集中**していることが分かる。（図9）

○平均旅行日数でも、香港5.8日、シンガポール6.9日、台湾6.1日に対し、韓国は4.4日と短くなっている。

○四半期別では、シンガポール及び台湾について、4-6月期にオホーツク圏の滝上町、湧別町で滞在が見られ、芝桜など、季節の花に関する観光スポットを訪れていることが推測される。

※滞在者数の合計は、各四半期滞在者数から重複してカウントしている者を除いた数字を示す。

図9.国・地域別市町村別滞在者数分布図（2018年）



【アプリ掲載情報の閲覧傾向】

○アプリに掲載している観光スポットの閲覧数は、7月が最も多く、12月が最も少ない結果となった。

○4、5月の国内閲覧状況を見ると、桜やチューリップなど、季節の花に関する観光スポット(図10:赤帯表示)の閲覧数が多く、特に5月はオホーツク圏の閲覧数が多くなっている。（図10）

図10.アプリ掲載情報の国内閲覧状況（4、5月）

順位	2018年4月	市町村
1	登別桜並木	登別市
2	有珠山ロープウェイ	壮瞥町
3	青い池	美瑛町
4	大雪山旭岳ロープウェイ	東川町
4	洞爺湖	洞爺湖町
4	五稜郭タワー	函館市

順位	2018年5月	市町村
1	芝ざくら滝上公園	滝上町
2	青い池	美瑛町
3	東藻琴芝桜公園	大空町
3	大湯沼川天然足湯	登別市
5	かみゆうべつチューリップ公園	湧別町
5	登別桜並木	登別市

北海道における外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態の概要⑥

国土交通省

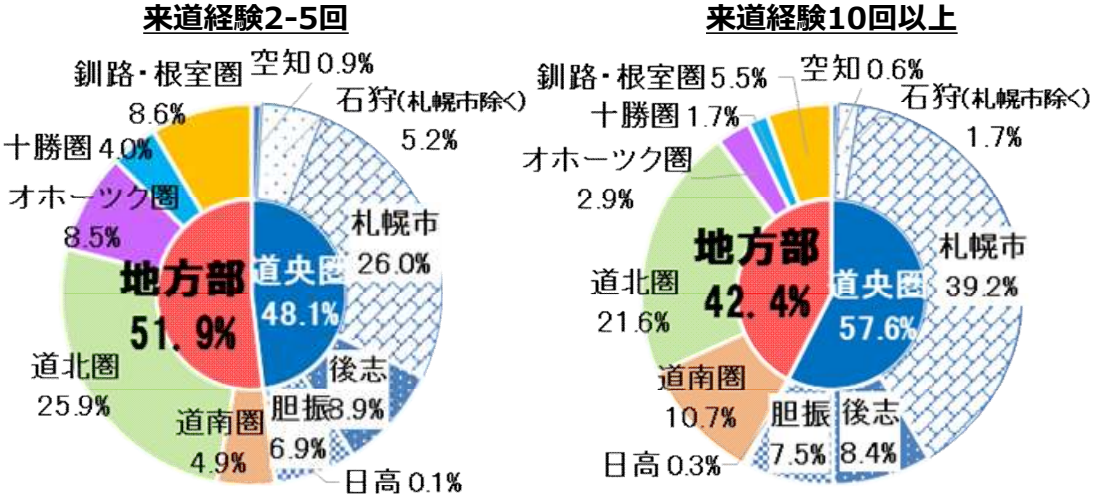
周遊・滞在の実態

■リピーターの方が地方部を訪れる割合は高くなるが、来道経験10回以上では道央圏（札幌）が再び高くなる。

【来道回数別　圏域別宿泊割合】

○来道回数別の地方部宿泊割合は、来道経験なし・1回では45.6%であるのに対し、来道回数2-5回では**51.9%**、来道経験6-9回では**51.2%**と、リピーターの方が地方部を訪れる割合が高くなった。
一方、来道回数10回以上では、札幌市の割合が高くなり、道央圏が**57.6%**と再び高くなった。（図11）

図11.来道回数別　圏域別宿泊割合　（2018年）



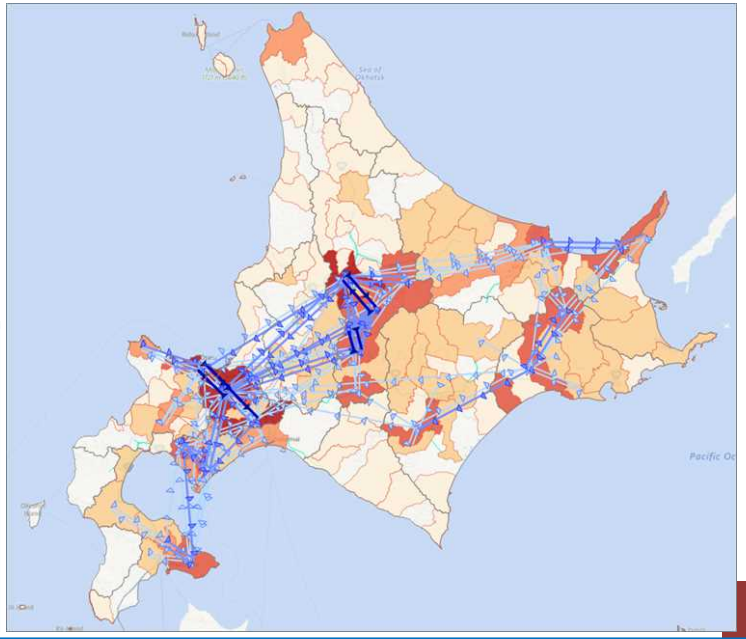
【滞在流動分析】

○札幌市-小樽市、旭川市-美瑛町、富良野市-中富良野町の相互流動が多く、これらの間の相互流動も多いことから、北海道におけるゴールデンルートと推測される。（図12）

○旭川市から網走市へ向かう滞在流動が多いが、その逆は少ない。
釧路市は北から流入し、西へ流出する滞在流動が多い。
これらのことから、道東地域への周遊は、札幌ー旭川ー網走ー釧路という右回りでの周遊が多くなっていると推測される。（図12）

■滞在流動とは
特定の市町村に滞在した者が、次にどこの市町村で滞在するのか、その流動を示した図。本分析では、流動がｎ≧11のみを抽出して表示。

図12.滞在流動分析図（2018年）



【利用空港】

○北海道へ到着する空港(入道空港)、北海道から出発する空港(出道空港)が把握できた外国人ドライブ観光客について、大部分が新千歳空港を利用していた。
※新千歳空港利用割合
入道時:609人中574人(94%)、出道時:518人中482人(93%)